

## ペットと別れた飼い主の6割が何らかの不調を感じた経験を持つ ～ペットとのお別れに関する調査～

「ハートのペット保険」でおなじみのアイペット損害保険株式会社（本社：東京都港区六本木、代表取締役：山村鉄平、以下「アイペット損保」）は、ペット(犬・猫のことを指す)と別れた経験（死別、失踪、脱走等）を持つ544名を対象に「ペットとのお別れに関する調査」を実施しました。

ペットとのお別れはつらいことですが、ペット飼育者であれば誰しにも訪れる出来事です。愛するペットを失った哀しみから、一定期間は体調や気持ちの面で不調が現れるケースは決して珍しいものではないようです。また、ペットとのお別れを経験したことがある飼い主の約7割がペットと別れる前の向き合い方に後悔をしていることが判明しました。他には、犬飼育者と猫飼育者で回答の内容に違いがみられる設問もありました。

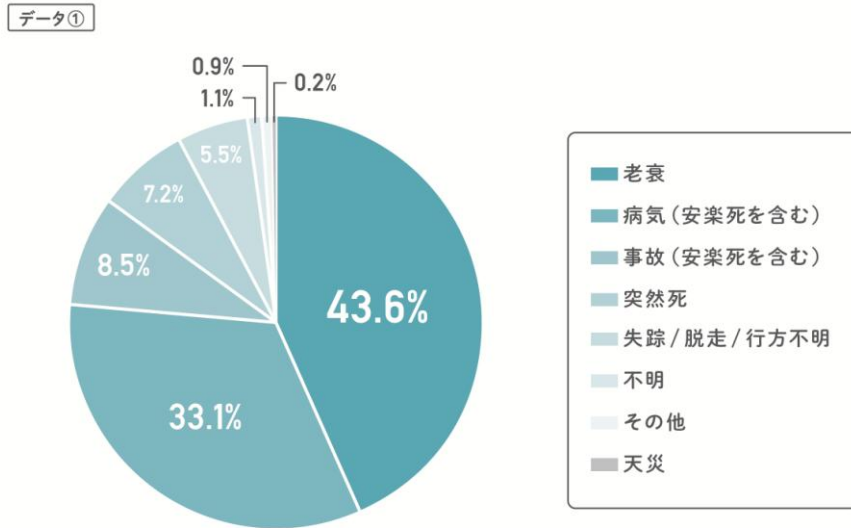
### 調査結果

1. ペットとお別れした理由で最も多いものは「老衰」（43.6%）
2. ペットとお別れした理由に関わらず、ペットとお別れした人に最も多い症状は、「突然涙が止まらなくなる」
3. ペットとお別れしたあと体に現れる不調は1カ月未満で治まる人が最も多い
4. ペットとお別れする前の向き合い方への後悔で最も多い回答は、犬・猫飼育者ともに「もっと一緒に時間を過ごせばよかった」
5. ペットと過ごした日々を振り返って、「ペットを飼って良かった」と思う人は88.3%

1. ペットとお別れした理由で最も多いものは「老衰」(43.6%)

ペットとの別れの理由で最も多い回答は「老衰」(43.6%)となりました。続いて病気、事故となっています。10%以下では、突然死や失踪/脱走/行方不明といった回答が挙がっています。

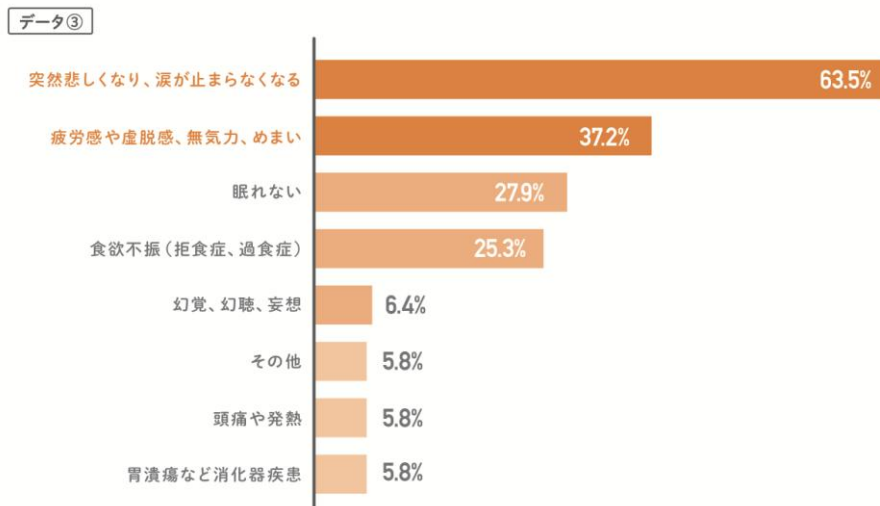
【ペットとお別れした理由を教えてください】(単数回答,n=544)



2. ペットとお別れした理由に関わらず、ペットとお別れした人に最も多い症状は、「突然涙が止まらなくなる」

ペットと別れた後に不調の症状を感じたかお聞きしたところ、全体の63.2%にあたる人(老衰でペットと別れた人を除く)が「何らかの不調を感じた」と回答しています。現れた症状について具体的にお聞きしたところ、「突然悲しくなり、涙が止まらなくなる」という症状が他の回答と比べて圧倒的に多くなりました。何気ない日常生活の中で、ペットのいない寂しみを実感し、涙してしまうことは特別なことではないのかもかもしれません。その他には、「他の犬を見たりすると悲しくなり涙ぐんでしまうことがあった」や「暫くの間、口数が少なくなった(ふさぎこむ程ではない)」という回答が見られました。

【ペットを喪失してから体調や気持ちの面で現れた不調を教えてください】(複数回答,n=312)  
※「特になし」という回答を除く

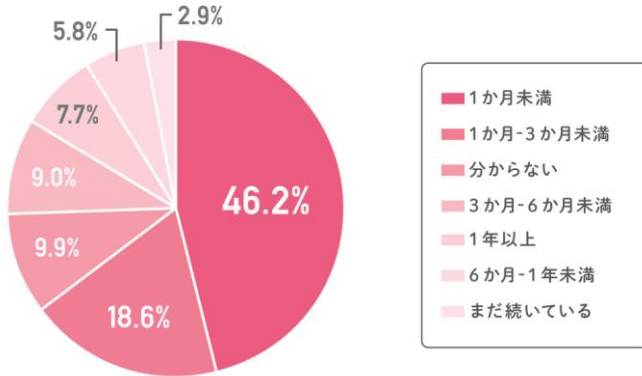


3. ペットとお別れしたあと体に現れる不調は1カ月未満で治まる人が最も多い

前問に続いて症状が続いた期間をお聞きしたところ、46.2%が「1カ月未満」と回答しています。1年以内に症状が治まった割合は、不調が現れた人のうち、8割近くにのぼることも明らかとなりました。一方で、2.9%が「まだ続いている」と回答しています。

【ペットを喪失してから体調や気持ちの面で現れた不調を教えてください】（単数回答,n=312）  
※「特に症状は現れていない」という回答を除く

データ④

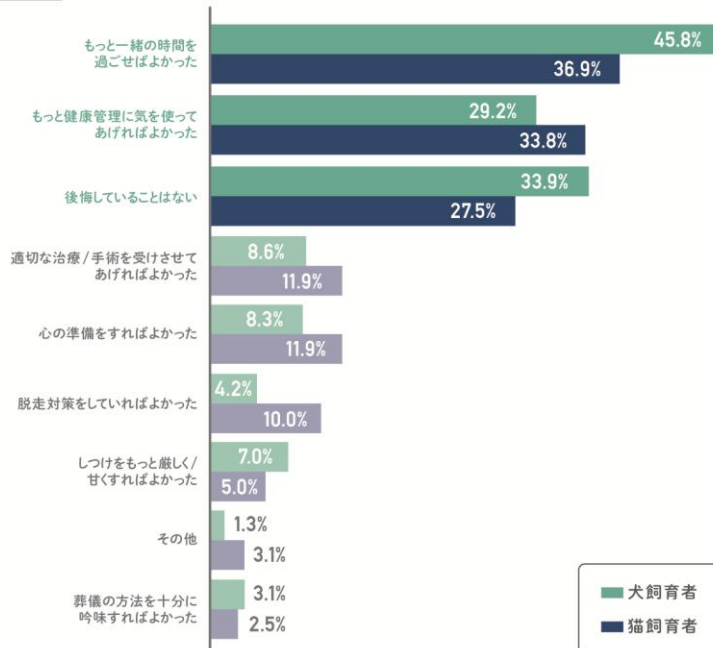


4. ペットとお別れする前の向き合い方への後悔で最も多い回答は、犬・猫飼育者ともに「もっと一緒に時間を過ごせばよかった」

ペットとお別れする前の向き合い方について後悔していることの有無をお聞きしたところ、7割近くが後悔していると答えました。犬・猫飼い主別に後悔の内容をみたところ、犬・猫飼い主がそれぞれ「もっと一緒に時間を過ごせばよかった」という回答が最も多くなっています。以下、犬飼育者が「後悔していることはない」「もっと健康管理に気を使えばよかった」と続きますが、猫飼い主はこの順位が逆転しています。また、猫飼い主が犬飼育者の回答を上回った後悔の項目としては、健康管理や治療/手術に関するものが多いことが分かります。また、心の準備に対する後悔が猫飼育者に多いことから、愛猫との別れが猫飼育者にとって予期せぬタイミングだったことも伺えます。脱走対策に関する後悔は、犬と比べて完全室内飼育率が低い(PEDGEのレポート記事に飛ばす)猫の飼育者に特徴的な回答だと言えるのかもしれませんが。

【ペットとお別れして後悔していることはありますか】（複数回答,n=544）

データ⑤



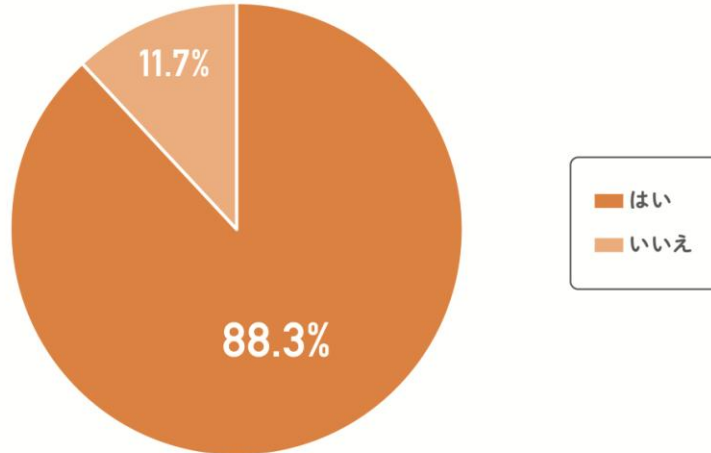
## 5. ペットと過ごした日々を振り返って、「ペットを飼って良かった」と思う人は88.3%

最後に、ペットと過ごした日々を振り返って、ペットを飼って良かったと思うかお聞きしたところ、9割近くの方が「良かった」を選択しました。新たなペットの迎え入れの有無に関わらず、ペットと一緒に過ごした時間は多くの飼い主にとってかけがえのない経験となっているようです。

【ペットと過ごした日々を振り返って、ペットを飼って良かったと思いますか】（単数回答,n=458）

※「分からない」という回答を除く

データ⑩



今回の調査では、ペットと別れた飼い主の半数以上に体調や気持ちの面で不調が現れることが分かりました。ペットとの別れは飼い主にとってつらい経験ですので、周囲のサポートは重要なものとなるでしょう。別れを経験しても9割近くの飼い主が「ペットを飼って良かった」と回答していることや、ペットと別れる前の向き合い方に後悔している人は少なくないことから、今あるペットとの時間を大切にしたいものです。

より詳細なデータをご覧になりたい方は、当社HPをご覧ください。

### 【調査概要】

- 調査対象：15-69歳の犬猫飼育経験者
- 調査人数：544名
- 調査方法：インターネット調査によるアンケート調査（複数回答可）を実施
- 調査期間：2016年7月15日

### 【アイペット損害保険株式会社について】

会社名：アイペット損害保険株式会社

代表取締役：山村 鉄平

本社所在地：〒106-0032 東京都港区六本木1-8-7 MFPR六本木麻布台ビル10階

事業内容：2004年設立、2008年少額短期保険業者として登録、2012年3月損害保険業免許を取得。

ペット保険の販売の他、「ペットとの共生環境の向上とペット産業の健全な発展を促し、潤いのある豊かな社会を創る。」ため、様々な活動を行っています。

<http://www.ipet-ins.com/>

今までのペットと飼い主に関する調査結果はこちらから

<http://www.ipet-ins.com/company/pr/survey.html>

▼報道・出版関連、マスメディアの方からのお問合せ先

アイペット損害保険株式会社

担当：事業戦略室 広報担当

TEL：03-6867-1330（直通）

FAX：03-6691-1212

E-MAIL：[pr@ipet-ins.com](mailto:pr@ipet-ins.com)

受付時間：平日9：00～18：00